

# プロジェクトの 2013年度取り組みレポート

より詳しい情報が掲載されています。  
「コスモ石油エコカード基金」のホームページをぜひご覧ください。  
<http://www.cosmooil.co.jp/kankyoo/>



## 日本他：南太平洋諸国生態系保全 南太平洋生態系保全学術懇談会

生態系を守るための3年間の研究成果を発表会で発信しました。  
南太平洋諸国政府関係者とも情報を共有しました。

本プロジェクトの最終年である2013年度は、ソロモンとパプアニューギニアの現地視察をしつつ、集中的に研究会を開いて成果をまとめ、2014年2月に成果発表会を開催しました。当日は同地域に関心がある方40人ほどが参加し、南太平洋諸国の課題と今後の可能性について情報を共有しました。2014年7月には安倍首相がパプアニューギニアを訪れ、同地域への注目は益々高まっています。エコカード基金での活動は終了となりますが、研究成果を役立てるべく、今後も情報発信を継続していきます。



現地視察先の村

## 中国：シルクロード緑化 NPO法人 2050

沙漠化防止のために、7万2千本の苗木を黄土高原に植林しました。  
住民の植林への意識も向上しています。

シルクロードの地、中国の黄土高原で沙漠化を防ぐために、現地の気候に合う沙棘(サジー)の苗木基地を作り、植林用の苗を供給しています。2013年度は甘肃省蘭州市で30ヘクタールの土地に7万2千本を植林しました。沙棘だけでなく、多様性を考慮して乾燥に強い松や柳も混植しました。また、当プロジェクトから派生した自主的な植林活動も盛んになり、現地の農家の植林に対する意識も高まっています。



根づいた沙棘は大きく育っています

## ツバル：南太平洋諸国支援 NPO法人 Tuvalu Overview

海岸の浸食を防ぐために、3千本のマングローブを植え、  
地元住民たちといっしょにごみを回収しました。

南太平洋のツバルでは海岸の浸食を防ぐマングローブ植林と、住民向けにごみ問題の啓発活動を行っています。2013年度はフナフチ環礁で約3,000本を植林しました。また、主に大人向けにごみ問題の啓発活動を実施しました。政府庁舎1階に廃棄物処理に関するポスターを複数掲示し、ワークショップも開催しました。11月には地域住民50人を集めて、清掃活動を実施しました。ツバル政府による収集車の協力もあり、1日でトラック12台分のごみを回収しました。



オリジナルTシャツを着てごみの分別と回収

## パプアニューギニア：熱帯雨林保全 公益財団法人 オイスカ

熱帯雨林保全のために、住民たちの生活安定につながる  
農業や畜産業、特産品づくりなどの講習会を開催しました。

パプアニューギニアで、安定した食糧自給や現金収入のために農業・畜産業の技術指導をしています。2013年度は農業指導だけでなく、タロイモや玉ねぎ、ジャガイモの試験栽培、モリンガ(ワサビノキ)を使った畜産飼料の開発などの研究を行いました。また、現地の資源を活用した特産品として、藤製品づくりの研修を実施しました。この研修により、トライ族は消えかけていた藤加工の技術を後世に伝えることができ、また藤の産地のパイン族は自らの森林の価値を認識することができました。



モリンガの栽培研修

## ソロモン：熱帯雨林保全 NPO法人 エービーエスディ (APSD)

熱帯雨林保全のために、食糧自給や現金収入につながる  
有機農業の指導と蜂蜜製品の製造販売に取り組みました。

ソロモン諸島にて、熱帯雨林保全のため、安定した食糧自給や現金収入の確保をめざし、定置型有機農業の技術指導と普及に取り組んでいます。2015年にはパーマカルチャーセンターを、現地人材で自主運営できるように動き出しました。2013年度は、JICAから派遣された専門家の指導を受けて「カエルコンポスト」と「マーケット生ごみコンポスト」を試験製造しました。さらに、特産品の開発とバリューチェーンの構築にも取り組みました。蜂蜜を商品化でき、首都のホテルやスーパーで主にお土産として販売されています。



蜂蜜を商品化

## キリバス：南太平洋諸国支援 NPO法人 国際マングローブ生態系協会

海岸の浸食を防ぐために、9千本のマングローブを植えました。  
住民による自発的な植林活動も広がっています。

地球温暖化による海面上昇の影響による海岸浸食を緩和するために、マングローブ植林を地元の若者や子どもたちとともに進めています。開始から9年が経過し、順調に成長した木は3~5メートルの高さになり、種子をつけはじめています。また、長年の活動の結果、マングローブ植林の重要性が認知され、地元では自主的な植林活動も広がっています。2013年度も、目標本数6,000本を大きく上回る9,820本のマングローブの種子を植えました。さらに、アナテ・トン大統領の強い要望を受けて、タラワ環礁以外でのマングローブ植林もはじまりました。



マングローブの木に登っての種子採取

## 中国：秦嶺(シンレイ)山脈 森林・生態系回復 西北大学生命科学学院

キンシコウやジャイアントパンダが暮らす森をとりもどすために、  
廃棄された林道10kmに8千本の苗木を植林しました。

絶滅危惧種のキンシコウやジャイアントパンダなど、希少動物の宝庫であるシンレイ山脈において、動物の移動を妨げる使われなくなった林道へ植林することで、森の生物多様性を取り戻すプロジェクトです。2013年度は10キロメートルの道路に約8,000本を植林しました。定着率は約80%と高く、順調に緑化が進んでいます。高校や大学などでの環境講座を通じた次世代育成や、キンシコウの生態研究の支援も継続しています。



林道だった場所に穴を掘って苗木を植える

## 日本：さとやま学校 NPO法人 エービーエスディ (APSD)

小学生517人に環境教育ができました。里山での農業支援は、  
販売・流通のルートが確立し、自立につながりました。

長野県飯綱町の里山での農地保全・耕作放棄地対策は、現地農家の代表が決まり、流通・販売の協働企業が決まったことで、生産から販売への自立した運営形態ができました。また、次世代の育成を目的とした環境教育を、東京都江東区の小学校5年生75人と3年生75人、神奈川県秦野市の小学校5・6年生315人、川崎市の小学校5年生52人に実施しました。2003年度に始まった本プロジェクトは、里山での取り組みが一定の成果を上げたことから、2013年度で終了しました。



昔の脱穀器具を体験

## 日本：野口健 環境学校 NPO法人 セブンサミッツ持続社会機構

富士山の登山と清掃を通じて「環境メッセンジャー」が  
新たに8人誕生しました。

体験を伴った知識を持ち、自ら環境に対するメッセージを多くの人に発信し、行動できる「環境メッセンジャー」の育成を目的に「環境学校」を開催しています。2013年度は高校生・大学生など8人を対象に富士山で開催し、登山や清掃活動を行い、世界遺産登録によって引き起こされる問題や課題について学びました。2014年2月には、「富士山の日フォーラム2014」に環境学校を体験した学生7人が環境メッセンジャーとして参加。環境活動を次世代に引き継いでいくためには何が必要なのかをテーマにディスカッションを行いました。



山頂はもうすぐ

## 日本：種まき塾 有限責任事業組合 富良野種まき塾

北海道の植生に合った苗木を育て、9,557本の苗木を道内での  
植林に提供しました。577人のココロにエコの種を蒔きました。

樹木の種や実生(種から発芽したばかりの木)を集めて成長させ、北海道内で植林する団体に苗木を提供しています。地域に元々ある樹種を植えることが、本来の植生回復につながると考え、赤エゾマツやミズナラなどを育成しています。2013年度は9,557本の苗木を提供しました。育苗や種まき体験には延べ577人が参加しました。畑に種を蒔き、体験参加者の心にもエコの種を蒔くということで、「ココロと大地にタネを蒔く」を合言葉に活動しています。



育成中の赤エゾマツ

## 日本：どんぐりの森 里山再生 NPO法人 森のライフスタイル研究所

山火事跡に3,200本の苗木を植林しました。子どもたちと  
昆虫採集をして生きものが戻ってきたことを確認しました。

山火事跡から、生態系の調査をしなが、ボランティアの手で里山の復興をめざすプロジェクトです。6月にどんぐりがなるコナラを約3,100本、ヤマモミジを約100本、1ヘクタールの里山に植林しました。8月には草刈りも実施し、さらに生物多様性調査もしました。また、地元の子もたちと昼は昆虫採集、夜はライトトラップに集まる昆虫を観察し、トンボやチョウをはじめ、多くの昆虫が戻ってきていることを確認することができました。



2011年に保育園の園庭に植えられたどんぐりから育った苗木

## 日本：ピオトープ浮島 水辺の生態系回復 NPO法人 とよあしはら

ピオトープ浮島を13基つくり、川や池に設置しました。  
植物が茂って水辺の生きものすみかになっています。

水質汚濁が進む川の下流や湖沼に、ピオトープとなる浮島を設置することで、水質浄化と水辺の生態系の回復をめざす活動です。間伐材や竹材、炭などで作った浮島には植物が茂り、水質が浄化され、多くの生きものが集まっています。プロジェクト最終年となった2013年度は、大学と協働して運営に参加してもらうなど、将来につながるような次世代の育成に努めました。活動初年度の2011年に設置した浮島には、すでにたくさんの草が生え、生きものが集まっています。



東京都上野恩賜公園「不忍池」の浮島

## 日本：ムササビとともに暮らす里山再生 NPO法人 都留環境フォーラム

野生動物のエサとなる大きな広葉樹を植林しました。  
これからは森を育てる整備と観察をつづけます。

富士山の北東で野生動物が暮らす里山をつくるプロジェクトです。2013年度も、実をつける大きな広葉樹を植えました。森は現在、植林を終えて育てる段階に入っています。今後は森林整備と観察を継続していきます。また、森林整備で切り落とした枝などは、木質バイオマスペレットとして活用するため、山梨県森林総合研究所と共同研究を行っています。



樹高5メートルはある木を植える

## 日本：東日本大震災復興支援 森は海の恋人 NPO法人 森は海の恋人

気仙沼で自然体験合宿を3回開催し、35人の子どもたちが  
山と海で全身を動かして遊び、学びました。

震災の被災地では子どもの遊び場が減り、自然離れが深刻です。一方で自然体験学習は求められており、安全なフィールドの確保や運営のノウハウが必要となっています。2013年度は春と冬にフィールド調査を行い、放射線測定や避難ルートの確認、他団体と意見交換するネットワークを構築しました。7月・8月・10月に計3回開催した自然体験合宿では、計35人の子どもが集まり、牡蠣の養殖いかだに集まる生物の観察や魚釣り、カヤック体験、ツリクライミングなど、全身を動かしながら、海の生きものと森の関係を学びました。



自分たちで釣った魚をつみれ汁に

### NPO法人 森は海の恋人 代表にきく 気仙沼の今、自然と子どもたち



NPO法人 森は海の恋人 理事長  
畠山 重篤氏

気仙沼湾を取り囲む森の緑が濃さを増し、水温が上昇してくると、海の生きものがどっと増えてきます。馬尾藻(ホンダワラ)の林には数えきれないほどのキヌバリの稚魚が棲みつき、その間をぬって大型のウミタナゴが美しい姿を披露してくれています。棧橋に特別に作られた「のぞき穴」から、体験学習にやってきた子どもたちが魚を観察し歓声が湧き上がります。それは設備の整った水族館では聞くことのできない歓声です。本来の自然に勝る教師はいないことを実感させられます。東日本大震災から3年が経過し、住宅再建や産業復興まではまだまだ時間が掛かりますが、いち早く復興した「自然のつながり」を、より多くの人々と分かち合えればと思います。海も山も明るくなる季節です。皆様もぜひ気仙沼に足をお運びください。